

おぼく愛人

巨星墜つ

（社）日本吟道学院総裁 渡辺吟神 先生は、予て病氣療養中のところ、十一月十五日十六時頃、自宅において逝去されました。享年六十九歳。茲に謹んで心からご冥福をお祈りしつつお知らせ致します。十一月十七日お通夜、十八日葬儀と十日祭。何れも文京区源覚寺に於いて、全国各地関係団体、会員多数参列のもと、しめやかに、行なわれました。当会より御生花と御香典を供え、多数の役員・会員が参列しました。なお、会長・龍陽副会長・佐藤勝龍理事が葬儀を支援しました。

秋季温習会開催

実行委員長 西本 秀 龍

十一月三日(日)文化の日、中野区野方区民ホールに於いて、秋季温習会が開催されました。開演十時に拘らず、九時にはすでに続々と会員の皆様が集まられ、一時は大混雑。しかし役員の皆様は手慣れたもので、準備は順調に進み、時刻の十時に開演となりました。この日、伴奏をして下さいましたのは、総本部音楽局長佐川龍凱先生、同音楽局長高松竹龍先生、同音楽局長榎田等城先生、同音楽局長若鷲教場の佐藤勝龍さんも加わって、名伴奏を頂き誠に有難うございました。

開会のことば、国歌斉唱に続き吟道精神、敬天愛人の大合吟と進み、第一部は初伝から中伝の皆様の独吟へと、多少緊張はしていたものの練習以上の成果発表だったと思えます。第二部の幼年吟詠では、一段と元気な声が出て一杯に響きわたる場面、第三部は、吟詠と吟舞。舞台一面華やかな色取りを添え、午前の番組は終了しました。十二時三十分より再会され、先ずは吉永洲神会長のご挨拶、その中、当会会員の皆様は「和をもって仲良く」とお礼とお願いの言葉がありました。午後八時に入り、独吟、連吟、吟舞とバラエティーに富んだ番組が披露され、第七部では会長・副会長の琵琶吟詠で熱吟が披露され、中でも龍陽副会長の琵琶の弾き語りでは、一瞬場内がシンと静まりかえりました。

番組最後は会長を中心に実行委員一同で「日本を愛す」を声高らかに吟じ、有坂静鏡・安永珀龍さんの舞も加わり、華やかなフィナーレとなり、閉会のことば、万歳三唱で全て終了となりました。そのままたまパーティー会場、すずめのおやどへ移動し、宝方孝城さんのユニークな名司会で益々盛り上がり、雀の宿がひばりの宿と化したようでした。楽しい一時を過ごし八時三十分、余韻を残して散会となりました。

今回の温習会では、他教場の人との合連吟がありお互いの交流と吟技向上のため非常に良かったと思えます。最後に温習会の実行委員長という大役を仰せつかり、無事終了出来ました事は、会長・副会長並び実行委員・各役員の皆様のおかげであります。この紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。有難うございました。

長崎全国大会合吟コンクールに出場して

いずみ会 内山 陽 洲

秋色に染まりつつある長崎に於いて、第三十三回全国

会報第十七号

発行所 平成一六五年十二月一日
 編集人 南洲吟道会広報局
 発行人 会 長 吉永 洲 神
 一六五 中野区白鷺二ノ三四ノ五
 (社) 日本吟道学院南洲吟道会
 ☎〇三(三三三〇)七〇〇九

大会に、おこがましいのですが合吟コンクール出場という、身に余る推薦を頂いたのですが、とても自信が無かった。不安で行きたくもありません。と、濱口喜祥・湊山河城というベテランの二人といわずみ会から新米の二人が入った五人のメンバーです。

龍陽先生の教室で、お互いが気持ちを合わせての練習が始まりました。先輩方の澄んだ声、貫禄のある声に圧倒されながらも、一緒に吟じられることに言い知れぬ感激を覚えました。必死で声を張り上げると、喉に力が入り、未熟さを痛感！。毎日「秋思」のことばかりで頭がいっぱい。独特の雰囲気を感じられて身体中が硬直してしまふ。段々緊張が高まり心臓が飛び出しそうでした。出場直前に龍陽先生が着物の襟を直して下さり、手を当てながら「大きく深呼吸して力を抜き、左足から出てさがるのですよ」とやさしく私の緊張をほぐして下さいました。姿勢を正していざ舞台へ！。万心の力をふりしぼって、五人の心が一つになれたことの喜びが、私にと何物にも代え難い実りのある最高の合吟コンクール出場でした。

出場の後で新村さんが「貴女達にメダルを持って返らせたあげた」との心暖かい思いやりの言葉に胸が詰まりました。又龍陽先生の練習日の後、練習日の最中、龍陽先生は、会長に「先生、お疲れさまでした。お熱のこもったお話を聞かせて下さい。心から感謝申し上げます。お話を聞かせて下さい。心から感謝申し上げます。お話を聞かせて下さい。心から感謝申し上げます。」と、お話を聞かせて下さい。心から感謝申し上げます。



動することばかりです。南洲吟道会に入っ
 心から感謝申し上げます。南洲吟道会に入っ

長崎全国大会を顧みて

いずみ会 奈良 藍洲

夏の或る日、先輩からの電話で「合吟コンクールの一員に選ばれた」との知らせを受け、一瞬耳を疑いずぐに長崎は異国情緒を漂わせ、当時の歴史へと誘うロマン溢れる美しい街。新しい時代の夜明けを告げる西洋文明開化の港町。以前からの憧れでもあり喜んで参加申し込みをしたのであつて、合吟コンクールに出吟出来るのは夢にも思つていませんでしたので、二重の喜びでした。盛夏にもめげずの特訓。会長・副会長の優しいお人柄に触れながら、貴重な昼休みに削つての熱意籠るご指導、先輩方の暖かい励ましのお言葉に支えられ、五人心を合わせ一心に吟じました。二十三組の合吟コンクール出場子、ムの中、第五位（最高点を得ながら音程一本上りの為減点となつた由）入賞となりました。優勝できなくて残念ですが、何とか上位入賞できました事は、龍陽先生の指導のおかげと深く感謝申し上げます。ご期待に副い得なかつたことをお詫び申し上げます。

吟道歴三年余、昇段審査・温習会・二十周年大会と様々な行事に参加させて頂く度に、緊張と無事に終えた後の充実感。その都度精一杯努力を重ねた課程に意義を感じて歩んでまいりました。この度、貴重な体験をさせて頂き、誠に有難うございました。

平成八年度秋季昇段審査会開く

平成八年十月二〇日(日)



一般の部						少年の部	
秀伝	九段	皆伝	四段	三段	初伝	初段	級名
四名	四名	三名	九名	一〇名	三名	九名	級名
教授	助教授	十段	七段	奥伝	六段	中伝	段名
三名	三名	名	五名	四名	四名	二一名	名
総本部審査委員会をへて認許			計一〇六名			八段	計名
計一七名			範師 五名			一段	計名
			準師範 八名			三一名	

(指導局)

吟に思う

いずみ会 平松 玉洲

感激する事があつても、中々感動するまでには行かない。事ある毎に感動を覚えるようになり、それぞれが前向きで、格好をつけようとする。特に出す吟神の心に通夜の日の、当会の神楽先生・龍陽先生のメルパルクホールでの舞台を拝見した時、悲しみをこらえ必死に吟じられた洲神先生、一時閉口した長時間舞に琵琶の弾き語りや幕の下りるのを見つめていました。唯ほんやりと幕の下の悲しみと淋しさに、吟道学院は打ちのめされていく状況の下であるが、私達南洲吟道会員は、両先生のもとで勉強出来る幸福感が心に複雑に交錯し、とまどつた一日を過ごしました。

これからは、何回感動出来る機会を与えて頂けるかわかりませんが、生ある限り南洲吟道会で吟を続けたいと思つていきます。

同志増加の一途 新入会員紹介

どうぞよろしく

- ☆今 愛子 (座間宮本) 四月一日付 会員番号五五八
〒二四三〇〇 四老名市東柏谷四ノ五ノ一七
☎〇四六二(三三二) 五一〇三
- ☆佐藤 廣 (三 菱) 五月一三日付 会員番号五五九
〒一三〇 墨田区菊川二ノ二ノ一〇ノ八〇五
☎〇三(三三六三三) 八五五〇
- ☆浜 寿美子 (あやめ) 六月四日付 会員番号五六〇
〒一七六 練馬区中村南三ノ十一ノ二
☎〇三(三九九〇) 一六六一
- ☆菅沼清子 (瑤 洋) 六月二一日付 会員番号五六一
〒一九三 八王子市元本郷町三ノ十二ノ九
☎〇四二六(二二五) 七四七七
- ☆盛 美枝子 (あやめ) 六月二六日付 会員番号五六二
〒一六五 中野区若宮三ノ四三ノ三
☎〇三(三三三〇) 七〇一八
- ☆秋永喜美代 (龍陽会二) 七月九日付 会員番号五六三
〒二七四 船橋市金杉六ノ三ノ八
☎〇四七四(四〇〇) 〇七七二
- ☆宮沢俊子 (やまびこ) 九月五日付 会員番号五六四
〒一六八 杉並区久我山一ノ八ノ一五一
☎〇三(三三三三四) 三四三〇
- ☆黒木 栄 (やまびこ) 九月五日付 会員番号五六五
〒一六八 杉並区久我山一ノ八ノ一五〇九
☎〇三(三三三三一) 二四一一
- ☆石井多美子 (やまびこ) 九月五日付 会員番号五六六
〒一六八 杉並区久我山一ノ八ノ一〇六
☎〇三(三三三三一) 六二八九
- ☆渡邊悦子 (いずみ山内) 十月一日付 会員番号五六七
〒一八五 国分寺市西町二ノ二二ノ六八ノ二〇六
☎〇四二五(七二二) 二三一七

合掌

八王子会 協 成 洲

平成八年八月十五日、はからずも吉永洲神先生始め、中央乃木会の先生方と共に、靖国神社参拝が叶い、上らない喜びでありました。今後、私の胸に日本吟道学院、更に中央乃木会、この二つのバッジが輝くことと相い成りました。日本人としてこの上ない感激であります。

「神慮に依えよ」。昭和四十年一月にフランス海軍部にお言葉であります。昭和四十年一月にフランス海軍部隊が靖国神社に参拝し、その他アルゼンチン、イタリヤ西ドイツ、ペルー、ブラジル等の外国軍隊は、自国の大使を伴つて何回か靖国神社に参拝しております。参拝にあたり彼等は、正式に儀仗の礼をもつて自国の国歌と日本国歌を奏して参拝し、靖国の英霊は、戦後外国軍の奏する「君が代」は幾度となく聞いておりますが、我が国の自衛隊の奏する「君が代」は悲しいかな一度として聞いたことはありません。彼等外国軍隊は異宗教であつても、敵国であつても恩讐を超えて、英霊の前ではその忠誠を讀めるのです。死をもつて祖国に尽くした勇氣は、一族一国家の独占物ではないからなのです。は、国家を賭けての戦争では、自分の運命は自分ではどうしようもならないのです。国家のために命を捧げた事実のみならず他国においても、皆、自国のための戦いであり、祖国のためという殉国の心、皆、自国のための戦いであり、神社を訪問した時は、殉国の兵士に花束を捧げ、靖国直気持ちで英霊に對して、礼を尽くす日が来ることを願わざるを得ません。

◆ 敬老の日

八王子会 若林華洲

敬老会に「荒城の月」斉唱のアトラクションに一吟添える。

・腰曲げて 踊る姿も 愛嬌の

紅濃くぬりて 歌は恋うた

・母在らば 今年百才 終の日は

七十三才 吾はこえにき

・紅白の 祝の饅頭 届きたり

赤は粒餡 白は漉し餡

・羊羹に 金一封も 添えられて

己の娘の 祝いのころ

・世紀跨ぎ 千年を跨ぐ 吾が生の

命を希ふ そこはかとなく

・墓石に 「寂」と彫まむ 吾が歌を

墓誌に残すと 夫は言ひ

◆ 高野山に旅して

中町会 小泉泰龍

・父母に侍し 歩む高野の 奥の院

大師の御廟 おごそかに在り

・勤行の 読経のひびき 沁みわたる

霊峰高野 明けのかそけし

・八葉の 峰にまもらる 法燈は

人ある限り 永遠に消えまじ

副会長 大淵龍生



・吟声に 心の耳を 傾けて

あすを思わず 今日を楽しむ

・聞こえぬに 聞けるふりし、聞く耳に

いびきも高き 吟の妙音

◆ 川柳

座間会 吉田希水

・発想を変えれば見えぬ物が見え

(相模原市文化教会祭入選作)

・筋書きにないアドリブが空流かせ

(きやり吟社掲載入選作)

・夏バテに気ばかり急いで今日も過ぎ

(相模原市南文化祭入選作)

吟

水

洲

城

祥

龍